

2017年度

事業報告書・決算報告書

2017年4月1日から

2018年3月31日まで

目 次

◆	ごあいさつ	1
事業報告		
1	総 会	2
2	役員会	2
3	会 員	2
4	調査及び研究 (定款第5条1号)	3
5	研究発表会及び学術講演会等の開催 (定款第5条2号)	4
6	学術誌及び学術図書の刊行 (定款第5条3号)	5
7	人材の育成 (定款第5条4号)	6
8	規格の作成及び普及 (定款第5条5号)	9
9	内外の関連機関、団体等との提携及び交流 (定款第5条6号)	11
10	研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款第5条7号)	12
11	その他この法人の目的を達成するために必要な事業 (定款第5条8号)	12
	参考：事業区分の説明	14
決算報告		
	貸借対照表	16
	貸借対照表内訳表	17
	正味財産増減計算書	18
	正味財産増減計算書内訳表	20
	財務諸表に対する注記	22
	附属明細書	25
	財産目録	26
◆	監事監査報告	28

ごあいさつ

公益社団法人自動車技術会
会長 松本 宜之

本会は昨年2月1日をもって創立70周年を迎えました。今年度末の会員数は、49,416名と、期末としては過去最高となりました。これも一重に会員増強活動を継続していただいている各支部の日ごろのご努力の賜物と深く感謝するとともに、会員数5万名規模の学術団体にふさわしい会員サービスや、活動のより一層の発展・充実に向けた事業強化に取り組む覚悟を新たにしております。

この一年間の自動車技術の動きを振り返りますと「自動運転」や「電動化」等の新しい挑戦を加速すると共に、「AI」「通信」「サイバーセキュリティ」更なる「地球環境保護」といった新たな課題解決に向けた取り組みの必要性がより明確になったと考えます。これらの技術分野で日本が世界をリードし発展するためには、これまでの学術・産業領域内部の壁を取り払い、新しい分野への連携拡大と強化が急務と言えます。

この技術変革の時期に産学官連携の場としての本会の役割はますます重要となっております。すなわち、技術面では全く新しい分野の開拓と他分野連携を強化して新技術創生を加速し、その成果をいち早く規格標準化してグローバルに訴求・展開することが強く求められます。そして、これらを推進する未来の技術者を育てる教育制度の充実もまったなしの状況です。

ここで昨今の社会状況と本会の立ち位置を改めて俯瞰しますと、先達の皆様に素晴らしい仕組みを作っていただいたと改めて感謝申し上げます。自動車技術の知の総合体としての各会議体があり、それぞれの会議体が推進する事業が本年度も一層充実してまいりました。具体的には5月の春季大会・展示会では活発な学術講演と新技術の展示が行われ、参加登録者数、出展小間数とも過去最高となり、社会の期待と注目度の高さを実感することができました。6月の名古屋展示会は毎年開催となり、中部地区での自動車関連展示会の顔となりつつあります。更には、将来の自動車技術者を育成する事業として、8月にキッズエンジニアそして9月には全日本学生フォーミュラ大会を盛況のうちに開催することができました。また、10月には秋季大会を大阪で開催し、質の高い学術発表と地元で独創的な技術を生み出している皆さんとの交流を図ることができました。そして、調査・研究、規格、出版の各事業においても新技術への取り組みと訴求を強化することができました。各方面で事業推進にご支援、ご協力いただきましたことに改めてお礼を申し上げます。

創立70周年を機に昨年の総会で「2050年チャレンジ」をご承認いただきました。来年度は、これを基に各会議体のロードマップを公開して実行のステージに入ります。自動車産業の大変革をリードし、本会創立100周年に向けた事業の更なる発展を目指して活動してまいりますので、引き続き会員並びに関係各位のご支援とご協力を切にお願い申し上げます。

1 総 会

2017年5月25日（木）パシフィコ横浜（横浜市）において第7回定時総会を開催した。

松本会長の議長により次の議案が審議され、いずれも異議なく可決された。

出席者による議決権の総数：157個（委任状を含む）

議案：

第1号議案：2016年度決算報告の件

第2号議案：理事交代の件

第3号議案：名誉会員推薦の件

報告事項

(1) 2016年度事業報告の件

(2) 2017年度事業計画の件

(3) 2017年度予算の件

2 役員会

理事会5回（臨時理事会1回を含む）、担当理事会3回、及び支部担当理事会2回を開催した。

3 会 員

2017年度中の個人会員の入会者数は4,248名、退会者数は3,819名で、2018年3月31日現在の個人会員数は、前年度に対し429名増（約0.9%増）の49,416名となった。賛助会員の入会数44社、退会数は17社で、2018年3月31日現在の会員数は前年度比27社増の642社となった。

会員資格別会員数の推移（毎年度末現在）

	名誉会員	正会員	学生会員	合 計	賛助会員
2013年度	46	43,395	2,108	45,549	533
2014年度	46	44,758	2,196	47,000	563
2015年度	49	46,115	2,196	48,360	589
2016年度	50	46,464	2,473	48,987	615
2017年度	52	47,150	2,214	49,416	642

支部別会員数の推移（毎年度末現在）

	北海道支部	東北支部	関東支部	中部支部	関西支部	九州支部	海 外	合 計
2013年度	208	576	17,803	20,678	5,493	506	285	45,549
2014年度	211	642	18,336	21,303	5,589	642	277	47,000
2015年度	216	622	18,462	22,059	5,855	854	292	48,360
2016年度	240	564	18,714	22,286	6,046	858	279	48,987
2017年度	212	575	18,680	22,497	6,247	939	266	49,416

4 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

技術会議では、本年度より「映像情報活用部門委員会」、「自動車制御とモデル部門委員会」、「2050年の自動車社会検討特設委員会」、「次世代自動車動力システム特設委員会」の2部門委員会・2特設委員会が設置され、全部で45部門委員会と2特設委員会の活動を推進した。各部門委員会は、2011年に策定した技術ロードマップを「2050年チャレンジ」を基に改定した。また、技術ロードマップ策定にあたり、共通分野ごとに「分野連絡会」を設立し、各委員会の独自領域と共有領域を明確にするための“技術領域マップ”も策定した。

共同研究センターでは、本年度より「将来の先進安全技術に関する人間受容性検討委員会」、「交通事故自動通報による救急医療改革推進に関する委員会」、「将来の車外騒音検討委員会」の3委員会が設置され、全部で7委員会の活動を推進した。

部門委員会と共同研究センター傘下の各委員会の企画により、2017年春季大会においては90件のオーガナイズドセッション（OS）及び18件のフォーラムを実施、名古屋展示会においては、4件のフォーラムを実施し技術交流の促進に大きく貢献した。国際会議関係では、「FAST-zero'17」、「SETC 2017」、「第28回内燃機関シンポジウム」を開催した。

技術会議

技術会議	技術会議組織の適正な運営、ならびに技術の向上を目指す交流活動の企画、推進、調整のための論議を行った。3回開催。
運営検討委員会	技術担当理事により、技術会議組織の適正な運営のための種々の課題に関する論議を行った。3回開催。
合同会議	2017年8月25日開催（早稲田大学理工学部 西早稲田キャンパス）。約140名出席。基調講演2件。事務局から事業報告と2018年度事業計画策定を依頼。技術部門貢献賞、学術講演会運営功績感謝状授与式、及び懇親会を開催。
分野連絡会	技術領域マップ、技術ロードマップ策定にあたり、各委員会の独自領域と共有領域を明確にすることなどを審議・検討する分野連絡会（エンジン、将来動力、トランスミッション、自動運転・将来交通、基礎力学、材料部材・生産リサイクルの6分野連絡会）を設立。各分野連絡会、1～3回開催。
部門委員会 ・特設委員会	45部門委員会、2特設委員会で活動。委員会延べ開催数262回、話題提供者数450名。
新設委員会	映像情報活用部門委員会、自動車制御とモデル部門委員会、2050年の自動車社会検討特設委員会、次世代自動車動力システム特設委員会
学術講演会運営委員会	春季・秋季大会の学術講演会のセッション編成、優秀講演発表賞受賞者の選定、等を行った。
国際会議	以下の国際会議を開催した。 ・FAST-zero'17(2017年9月18日～22日 奈良春日野国際フォーラム) ・SETC2017(2017年11月15日～17日 ジャカルタコンベンションセンター、インドネシア) ・第28回内燃機関シンポジウム(2017年12月6日～8日 福岡リーセントホテル)
OS・フォーラム	OS:2017年春季大会にて85件を実施 フォーラム:2017年春季大会にて14委員会で16件、名古屋展示会にて1委員会で1件を実施
シンポジウム・講習会	シンポジウム:20委員会が企画し19件実施 講習会:5委員会にて4件実施 シンポジウム、講習会合わせて総動員数2,368名
公開委員会	16委員会が15件を企画・実施

研究調査事業	7委員会が9テーマで実施。予算総額:7,346千円
受託・請負事業	大気環境技術・評価部門委員会 受託先:日本自動車工業会
その他活動	デザイン部門委員会により、第6回中高生カーデザインコンテストを開催

共同研究センター

運営委員会	共同研究センターの運営他について議論した。1回開催。
委員会活動	7委員会にて調査研究活動を推進。委員会延べ開催数35回、話題提供者数70名
新設委員会	将来の先進安全技術に関する人間受容性検討委員会、交通事故自動通報による救急医療改革推進に関する委員会、将来の車外騒音検討委員会
OS・フォーラム	OS:2017年春季大会にて5件企画・実施 フォーラム:2016年春季大会にて5委員会が4件、名古屋展示会にて4委員会が3件を実施
研究調査事業	1委員会が1テーマで実施。予算:500千円

OS: Organized Session

FAST-zero: International Symposium on Future Active Safety Technology – Toward zero traffic accidents

SETC: Small Engine Technology Conference

5 研究発表会及び学術講演会等の開催

(定款第5条2号、公益目的事業2・3・自動車技術展は収益事業)

春季大会は過去最多の参加者数となった。秋季大会(大阪)は昨年の札幌開催時を上回る2,521名の参加登録があり、前回大阪での開催時(1,775名/2012年)を大幅に上回る規模で盛況裡に開催した。自動車技術展:人とくるまのテクノロジー展は、5月に横浜、6月に名古屋で開催した。横浜、名古屋ともに前回は上回る出展規模、来場者数となった。春季大会、自動車技術展(横浜・名古屋)では創立70周年に因んだ催しが行なわれた。また、2011年に策定した展示会企画会議ロードマップを「2050年チャレンジ」を基に改定した。

春季大会 <2017年5月24日(水)～26日(金) パシフィコ横浜(横浜市)>

学術講演会	111セッション、講演数527編(うち英語講演数97編)、参加登録者数6,130名
フォーラム	20件、聴講者数計4,426名
創立70周年記念特別講演、創立70周年記念祝賀パーティ、フォーラム、女性技術者交流会	

秋季大会 <2017年10月11日(水)～13日(金)(大阪市)>

学術講演会	72セッション、講演数347編(内、英語講演8編)、参加登録者数2,521名
Technical Review、市民公開特別講演、秋季大会パーティ(技術者交流会)、学生フォーミュラ車両展示、産学ポスターセッション、女性技術者交流会	

自動車技術展 <2017年5月24日(水)～26日(金) パシフィコ横浜(横浜市)>

<2017年6月28日(水)～30日(金) ポートメッセなごや(名古屋市)>

人とくるまのテクノロジー展 2017 横浜	出展数562社/1175小間、来場者数90,687名、貢献出展社7社を表彰
人とくるまのテクノロジー展 2017名古屋	出展数320社/659小間、来場者数39,810名、貢献出展社1社を表彰

シンポジウム

部門委員会企画 シンポジウム	計23回開催、計2,368名参加
-------------------	------------------

6 学術誌及び学術図書の刊行（定款第5条3号、公益目的事業1・2・3）

本年度は新刊書籍として「自動車システムのモデルベース開発入門」「自動車の空力技術」「2050年自動車はこうなる」「国内14メーカーが語る－独創技術が生みだすブランドの力」の4冊、および交通安全教育ビデオ「ドライブレコーダは見た！Vol.4 歩行者・自転車編」を発行した。出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった個人22名に出版・編集功績感謝状を贈呈した。また、2011年に策定した編集会議ロードマップを「2050年チャレンジ」を基に改定した。

資料収集・調査研究に関する学術誌の発行（公1）

自動車技術	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車関連のほか、自動車技術者や研究者などにとって有益なテーマを毎月特集テーマとして取り上げタイムリーな記事を掲載 ・本会創立70周年企画として「クルマづくりの心意気」を連載 ・8月年鑑号英語版のウェブサイト掲載を継続 ・2018年1月号より特集記事の文字サイズを拡大 ・年間発行部数約 62.7万部
自動車技術文献抄録誌	毎月発行し、4360件の文献を掲載した
JSAE エンジンレビュー	電子版不定期刊行物として発行 2017年度は、Vol.7 No.3～Vol.8 No.1として、計 5回発行した
日本の自動車規格 (2016年日本語版)	JASO 規格 381件、TP・TR 66件、JIS 規格 393件、TRIAS 212件を収録
JASO 規格(英語版)	英訳された JASO 規格 288件を収録
高翔	関東支部企画・編集により2回発行
宙舞	中部支部企画・編集により2回発行
関西支部ニュース	関西支部企画・編集により2回発行
オートテクノロジー2018	第67回自動車技術会賞・技術開発賞受賞者へのインタビュー記事を収録し発行(53,700部)、会員に配布
テストングツール 最前線 2017	自動車開発の現場を支える試験・計測・診断・評価・検証ツールなどソリューション情報をまとめた記事広告誌として発行(61,000部)。会員のほか、人とするまのテクノロジー展来場者にも配布
次世代自動車技術 最前線 2017	次世代自動車に関係する各社の技術や取り組みをまとめた記事広告誌として発行(61,000部)。人とするまのテクノロジー展来場者にも配布
2050年自動車はこうなる	創立70周年記念出版として、「社会・交通システム委員会」「将来自動車用動力システム委員会」編著により発行
国内14メーカーが語る－ 独創技術が生みだすブ ランドの力	創立70周年記念事業実行委員会企画により発行

研究発表に関する学術誌の発行（公2）

自動車技術会論文集	年6回発行し(冊子版、CD版)、296編掲載 2018年1月号よりJ-STAGEにて一般公開を開始した
International Journal of Automotive Engineering	英文の電子ジャーナルとして年4巻発行 27件を掲載し、J-STAGEにて公開
学術講演会予稿集	2017年春季・秋季大会分を発行、合計 875編掲載
Summarized Paper	2017年春季・秋季大会分をウェブ上で無料公開
フォーラム資料	21冊発行、合計 126編掲載

人材育成に関する学術図書の発行（公3）

シンポジウム・講習会 テキスト	21冊発行、合計 254編掲載
自動車システムのモデ ルベース開発入門	「国際標準記述によるモデル開発・流通検討委員会」の編著にて発行
自動車の空力技術	「流体技術部門委員会 空力技術新版編集WG」の編著にて発行

ドライブレコーダは見た！Vol.4	ドライブレコーダ映像を活用した交通安全教育用DVDを発行(歩行者・自転車編)
関西支部	学自研機関誌(学自研ニュース)2回発行
九州支部	学自研機関誌(Eternal Car Life 20号)発行

広報関連他の発行

プレスリリース	14件配信
ニューステターJSAE Eye	4回発行(4月、7月、10月、1月)
JSAE メールマガジン	イベント、新着文献等の情報を配信(登録者:約4万名)
会誌創刊70年記念 WEB サイトの公開	創立70周年記念企画として、会誌創刊70年記念サイトを構築し、本会 WEB サイトにて公開
北海道支部	支部だより1回発行
関東支部	行事案内6回発行
中部支部	支部ニュース6回発行
関西支部	行事案内7回発行

7 人材の育成 (定款第5条4号、公益目的事業3)

第15回 全日本 学生フォーミュラ大会には、98チームが参加登録、海外21チームを含む93チームが本大会に出場した。キッズエンジニア2017は名古屋で開催し、5,345名の参加者を集めた。また、支部主催の小学生向けものづくりプログラムも活発に行なわれた。自動車開発・製作セミナーは、座学講座編、競技車両見学編、走行実習編、ものづくり編、EV クラス回路製作実習編を実施した。新分野のエンジニア育成講座として、自動車サイバーセキュリティ講座を初開催した。また、自動車工学基礎講座はモーターサイクル工学講座1回、海外開催1回を含め計7回、技術者育成講座として新入会員並びに学生会員向けの講座を1回開催した。自動車エンジニアレベル認定では、8名の JSAE フェローエンジニア、6名の JSAE プロフェッショナルエンジニア、36名の JSAE シニアエンジニアおよび106名の JSAE エンジニアを認定した。支部学自研主催の講習会、見学会、研究発表会は支部の特徴を活かした活動が行われた。また、2011年に策定した教育会議ロードマップ及び学生フォーミュラ会議ロードマップを「2050年チャレンジ」を基に改定した。

自動車工学講座

	第47回:参加者117名、2017年6月27日～28日、7月26日～27日、広島県情報プラザ(広島)
	第48回:参加者250名、2017年8月24日～25日、8月31日～9月1日、名城大学(愛知)
基礎講座	第49回(モーターサイクル工学):参加者388名、2017年9月27日～28日、静岡文化芸術大学(静岡)
	第51回:参加者89名、2017年12月4日～7日、ダイハツ工業販売研修センター(兵庫)
	第52回:参加者363名、2018年1月16日～18日、本田技術研究所(栃木)
	第53回:参加者230名、2018年2月27日～3月2日、東京工業大学(東京)
	第50回:参加者113名、2018年3月21日～23日、NSTDA(タイ)
技術者育成講座	第2回:参加者166名、2018年3月14日、発明会館(東京)
自動車サイバーセキュリティ講座	第1回:参加者208名、2017年9月13日～14日、工学院大学(東京)

自動車開発・製作セミナー

座学講座編	参加者55名、2017年9月7日、エコパ(静岡)
-------	--------------------------

競技車両見学編	参加者6名、2017年4月8日、岡山国際サーキット(岡山) 参加者17名、2017年5月20日、オートポリス(大分) 参加者11名、2017年11月11日、ツインリンクもてぎ(栃木)
走行実習編	参加者24名、2018年3月17日、日産GRANDRIVE(神奈川) 参加者9名、2018年3月22日、鈴鹿サーキット交通教育センター(三重)
ものづくり編	参加者16名、2018年3月8～9日、ものづくり大学(埼玉)
EV クラス 回路製作実習編	参加者37名、2018年3月17日、日産GRANDRIVE(神奈川)
支部の講演会・見学会等	
北海道支部	見学会1回、講演会3回(共催含む)、市民講座2回開催
東北支部	見学会2回(関東支部共同企画含む)、講演会2回、市民講座を3県で8回開催 定例の講演会、講習会、見学会を合計22回開催
関東支部	今年で8回目となった学生の国際交流活動をタイおよび台湾 SAE との相互交流として実施
中部支部	見学会12回、研究発表会1回、技術講習会5回、講演会2回、技術交流会2回、技術者懇談会3回、体験型講習会1回、座談会1回を開催 技術講習会では、車両や部品を展示し、講師と参加者との交流の場を設定
関西支部	見学会6回、講演会1回、技術者懇談会1回、技術者交流会1回を開催(九州支部との合同見学会を1回含む)
九州支部	講演会2回、70周年記念講演会2回、見学会2回、関西支部との合同例会(見学会、講演会)1回、市民講座4回、70周年記念パーティ1回を開催
技術者・研究者の認定制度	
	JSAE フェローエンジニア8名
第12回自動車エンジ ニアレベル認定	JSAE プロフェッショナルエンジニア6名 JSAE シニアエンジニア36名 JSAE エンジニア106名を認定
第15回 全日本 学生フォーミュラ大会—ものづくり・デザインコンペティション—	
2017年9月5日(火)～9日(土)にエコパ(静岡県掛川市/袋井市)で開催	
<ul style="list-style-type: none"> ・来場者:18,832名(延べ人数) ・参加登録チーム:98チーム(国内74(ICV66・EV8)、海外24(ICV17・EV7)) ・書類選考通過チーム:94チーム(国内72(ICV64・EV8)、海外22(ICV16・EV6)) ・出場チーム:93チーム(国内72(ICV64・EV8)、海外21(ICV15・EV6)) ・フォローアップのみ参加:1チーム(国内1(ICV1)) ・車検通過:79チーム(全種目通過) ・エンデュランス走行台数:67台(内、完走:39台) ・総合成績:1位 京都工芸繊維大学、2位 芝浦工業大学、3位 名古屋工業大学、4位 名古屋大学 EV、5位 日本自動車大学校、6位 横浜国立大学 	
支部合同試走会	8月に関東・中部・関西支部合同試走会開催
北海道支部	学生フォーミュラ車検講習会開催、合同試走会2回開催、全日本 学生フォーミュラ大会に参加、全日本 学生フォーミュラ大会参戦報告会開催、雪氷路セーフティドライビングコンテスト開催
東北支部	第4回学生EVフォーミュラ試走会開催、第15回全日本学生フォーミュラ大会 EV部門へ2チーム参加
関東支部	6月に騒音講習会、燃調講習会、8月に溶接講習会、ダンパ相談会、もてぎ試走会、10月に制御講習会、3月にダンパ講習会を実施
中部支部	走行技術トレーニング5回/6日開催(小笠山総合運動公園)、学生フォーミュラ大会の3支部合同試走会へ13チーム、第15回全日本 学生フォーミュラ大会に16チームが参加(EV 参加を含む)
関西支部	関西支部独自の試走会2回・走行会1回及び講習会5回、勉強会2回を開催、第15回全日本 学生フォーミュラ大会に17チームが参加
九州支部	試走会3回(6月、7月、12月)、勉強会1回(12月)、設計講習会1回(6月)、空力講習会1回(1月)、車検講習会1回(8月)を開催、第15回全日本 学生フォーミュラ大会に7校が参加

キッズエンジニア2017

2017年8月4日(金)～5日(土)にポートメッセなごやで開催。小学生及びその保護者を対象に教室型プログラム26件、体験展示型プログラム11件の過去最多37件を企画。参加者5,345名。

支部の小学生プログラム

北海道支部	市民講座1 サイエンスパーク2017にて燃料電池キットを展示 市民講座2 ラリー北海道「北海道自動車産業ゾーン」にてものづくり体験を共催 小学生くるま未来体験教室1回開催
東北支部	市民講座「第3回走るペーパーカーの製作及び走行距離競技大会」「自動車の将来と電気自動車の構造」を各1回開催 キッズエンジニア in 東北2017をスリーエム仙台市科学館にて開催。県内外の小学1～6年生を対象に509名が参加。協賛7社
関東支部	小学生くるま未来体験教室7回開催(内1回は北海道支部との共同開催)
中部支部	キッズ・モノづくりワンダーランド10回開催
関西支部	尼崎市 ダイハツ販売研修センターにて「キッズ・エンジニア」開催

次世代カーデザイナー人材育成プログラム「中高生諸君！カーデザインに挑戦！」

第6回カーデザイン コンテスト	応募253作品、5名に各賞を授与、佳作22件
--------------------	------------------------

学生活動企画委員会の活動

学生向けウェブ活動 学生向けの情報発信として、SNS(Facebook)を活用

学生安全技術デザインコンペティション

2018年3月に開催される決勝大会へ向けて、国内の大学に安全技術デザインの提案を募集し、2017年8月末までに3大学4チームがエントリーした。エントリーチームを対象に、本田技術研究所施設の見学会・技術者とのディスカッションを実施した(2017年11月)。書類選考(2017年11月)を経て、決勝大会(2018年3月)を実施し、東京大学のチーム”S”と日本大学工学部のバイオメカニクス研究室の2チームが最優秀チームに選ばれた。

学生自動車研究会(学自研)の活動

北海道支部	支部学自研参与・学生委員会2回開催
東北支部	支部学自研大会1回、運営委員会3回、学自研参与会2回、講演会1回、見学会1回、第36回タイヤ研修会1回、第27回自動車技術独創アイデアコンテスト1次(51アイデア)・2次(12アイデアより最優秀賞2名)、第28回手作り自動車省燃費競技大会(11チーム)、第32回整備コンテスト(16チーム)及び運転適性診断実施
関東支部	学自研大会1回、参与会1回、支部学生委員会12回開催 学術研究講演会、見学会、講演会、運転研修会などを9回開催
中部支部	参与会2回、学生委員会4回、学術講演会1回、新入生ものづくりセミナー1回、自動車テクニカルセミナー2回、基礎技術交流会1回、中部地区交流会1回、社会人技術者との交流会1回、学生委員会引継会1回開催
関西支部	参与会1回、運営委員会4回、講演会4回、見学会8回、交歓会2回、小学生体験教室、新車試乗技術説明会、危険回避運転講習会、卒業研究発表会を各1回開催、学生フォーミュラ運営委員会8回、学自研ニュース2回発行
九州支部	学自研総会1回、研究発表会1回、見学会2回、安全運転講習会1回、懇親会1回を開催、学自研機関誌1回発行

8 規格の作成及び普及（定款第5条5号、公益目的事業1）

2017年度は、規格会議傘下に規格委員会（自動車分野）と ITS 標準化委員会（高度道路交通システム分野）を配し、規格委員会は「第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画（2016年度～2020年度）」に基づき、ITS 標準化委員会は「ITS 分野の国際標準化戦略 5ヶ年計画（2017年）」に基づき、国内外の標準化活動を推進するとともに、2011年に策定した規格会議ロードマップを「2050年チャレンジ」を基に改定した。

昨年から継続して自動運転の標準化に関して自動運転標準化検討会を開催し、TC22及びTC204の各SC/WGの動向についての情報交換、日本の対応策検討を行った。他団体との連携においては、日本自動車工業会の国際標準検討会や自動運転検討会との情報共有、また自動運転標準化研究所（JASIC）において自動運転に関する基準と標準の連携活動を実施した。

規格委員会傘下において、ISO 国際会議への派遣や日本開催、JIS・JASO 制定・改正等の活動を実施したほか、第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画のフォローアップ WG 活動を行った。また、2018年度に向けて、規格委員会を「自動車標準化委員会」と「JIS/JASO 規格審議委員会」の2つに分割し、国際及び国内標準化活動を促進することが合意された。

ITS 標準化委員会において、「ITS 分野の国際標準化戦略 5ヶ年計画（2018年）」を策定したほか、ISO /TC204の2回の総会に日本代表団、WG14専門家を派遣するなどの活動を実施した。

規格委員会（自動車分野）

	<ul style="list-style-type: none"> ・TC22/SC/WG 会議 会議出席：106会議266名（ウェブ会議出席：95会議以上） 日本開催：1SC（SC38：二輪）、13WG（SC32/WG1/WG2/WG5/WG6/WG7/WG10（2回）/WG11、SC33/WG16、SC38/WG1/WG2/WG5、TC43/SC1/WG42）
ISO	<ul style="list-style-type: none"> ・8件の新規作業項目（NP）制定提案 <ul style="list-style-type: none"> - 自動車-アイドリングストップ用スタータリレーの耐久試験方法 - 二輪自動車-蒸発ガス測定方法-第2部：透過試験方法 - 自動車-車載イーサネット-第8部：電気 100M イーサネット用部品及び試験方法 - 自動車-車両周辺の運転情報取得システムインタフェース - 自動車-先進歩行者脚部インパクト（aPLI）の仕様および性能要件 - 自動車-先進歩行者脚部インパクト（aPLI）用傷害発生確率関数 - 二輪自動車-操作装置の形式、配置及び操作方法（改正） - 二輪自動車-二輪自動車-操作装置、表示装置及び警報装置の識別記号（改正） ・国際規格案（DIS）回答 59 件
	<ul style="list-style-type: none"> ・第10回 ISO 研修会 基礎編（7月13日）参加者 85 名 内容：ISO の基礎知識 ・第11回 ISO 研修会 実践編（10月18日）参加者 9 名 内容：ISO エキスパート 2 名による講演、グループディスカッション
	<ul style="list-style-type: none"> ・Thai Industrial Standards Institute, Ministry of Industry(TISI)およびタイ自動車技術会(TSAE)との標準化意見交換会
JIS	<ul style="list-style-type: none"> ・制定原案1件、改正原案2件 ・JIS、JASO 原案作成講習会：参加者15名（10委員会）、5月17日
JASO	<ul style="list-style-type: none"> ・制定3件、改正15件、小改正10件、標準化調査7件、テクニカルペーパー制定4件・改正1件、小改正1件
委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画のフォローアップ WG 活動を実施 ・自動運転標準化検討会における TC22、TC204、自工会との連携促進 ・12部会、63分科会を設置、構成委員数1,771名、開催数341回

受託事業	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業(自動車の省エネ技術に関する国際標準化)受託先:野村総合研究所 ・戦略的国際標準化加速事業(自動車の安全信頼性に関する国際標準化)受託先:三菱総合研究所
------	--

ITS 標準化委員会 (高度道路交通システム分野)

ISO	<ul style="list-style-type: none"> ・TC204 及び関連国際会議 会議出席:33 会議 57 名 日本開催:WG14 自動バレー駐車システムワークショップ ・8 件の予備業務項目(PWI)提案 <ul style="list-style-type: none"> - 高度道路交通システム-規制商用貨物車のための協調通信情報アプリケーションのフレームワーク-陸送スタビリティのモニタリング - 電子料金収受-EFC 支援による交通マネジメント - 電子料金収受-共通支払メディアへの EFC アプリケーションインターフェイス要件 - 高度道路交通システム-部分的自動車線変更システム - 高度道路交通システム-グラフィックデータディクショナリー第 2 部:事例集 - 高度道路交通システム-自動運転システムのユースケースと参照アーキテクチャ - 高度道路交通システム-自動バレー駐車システム-性能要件及び試験法 - 高度道路交通システム-同一車線内衝突回避操舵制御システムの性能要件及び試験法 ・国際規格案(DIS)回答 23 件 ・7 件の日本提案による国際標準規格など(ISO/TS/PAS/TR)が発行 <ul style="list-style-type: none"> - 高度道路交通システム-グラフィックデータ辞書 - 高度道路交通システム-車線逸脱警報システムの性能要件及び試験法 - 高度道路交通システム-自動運転の標準化に関するレポート - 高度道路交通システム-IC カードによる車載器決裁のインタフェース定義 - 高度道路交通システム-ITS におけるウェブサービスの利用-第 1 部 - 高度道路交通システム-時空間データ辞書 - 高度道路交通システム-歩行者検出・衝突被害軽減ブレーキシステムの性能要件及び試験法
委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット「ITS の国際標準化 2017」を発行 ・ITS 分野の国際標準化戦略 5 ヶ年計画(2018)を策定 ・ITS 通信に関する専門家会議 参加者数:141 名、2018 年 2 月 16 日 ・ITS 標準化委員会、技術委員会、ITS 国際標準化戦略タスクフォース、WG14 分科会関連、その他の国内会議を 69 回開催、1,051 名出席
受託事業	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業委託費(省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野))(高度道路交通システムに関する国際標準化・普及基盤構築) 受託先:野村総合研究所 ・省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業委託費(省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野))(自動運転/高度運転支援システムに関する国際標準化・普及基盤構築) 受託先:野村総合研究所

JIS: Japanese Industrial Standards
JASO: Japanese Automobile Standards Organization
DIS: Draft International Standard

9 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

(定款第5条6号、公益目的事業1・2・3)

国内では日本学術会議や関係府省庁、日本工学会等関連団体との連携に努め、海外では FISITA や APAC の活性化に協力すると共に、欧米・アジア地域の各国自動車技術会をはじめとする諸機関、団体との交流を推進した。

日本学術会議	協力学術研究団体として連携を図った。安全工学シンポジウム2017(2017年7月)を共催。
経済産業省	省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業(省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野)):①自動車の省エネ技術に関する国際標準化、②高度道路交通システムに関する国際標準化・普及基盤構築、③自動運転/高度運転支援システムに関する国際標準化・普及基盤構築 戦略的国際標準化加速事業(自動車の安全信頼性に関する標準化)
国土交通省	第25回ESV国際会議(デトロイト:2017年6月)における第7回学生安全技術デザインコンペティションへ日本代表チームを派遣 自動運転基盤化研究所(事務局:自動車基準認証国際化研究センター)における国際標準化活動と国際標準化活動の連携
日本工学会	理事会・事務研究委員会へ委員を派遣し、工学系学術団体との連携を図った。
日本機械学会	自動車技術会が幹事となり、第28回内燃機関シンポジウム(2017年12月)を共催
日本規格協会	自動車工学基礎講座・標準化講座への講師を依頼 JIS、JASO 原案作成講習会への講師を依頼
日本自動車工業会	海外における PM 研究動向の最新研究調査(受託事業)を実施 国際標準検討会・自動運転検討会との連携活動
日本鉄鋼協会	材料部門委員会と共同設置している自動車用材料共同調査研究会の活動を推進
日本ロボット学会	共同設置したカー・ロボティクス調査研究委員会を2016年度で終了、活動成果発表として、春季大会(2017年5月)において OS、名古屋展示会(2017年6月)においてフォーラムを開催
計測自動制御学会	自動車制御とモデル部門委員会の活動で連携
FISITA	FISITA 執行役員会並びに理事会の副会長・理事の要職に、本会役員及び役員経験者が就き、FISITA 組織・活動に参画 FISITA 2018 World Automotive Congress Chennai(インド チェンナイ:2018年10月)の開催準備活動に協力
SAE International	
国際会議の共催	国際会議共催の協力覚書のもと、SETC 2017(ジャカルタ/本会主担当:2017年11月)を開催、SETC2018(デュッセルドルフ/SAE 主担当:2018年11月)の開催準備活動を推進
英国機械技術者協会 (I Mech E)	MOU に基づき友好的協力関係構築の活動を継続推進
中国汽車工程学会 (SAE China)	APAC-19上海(2017年10月)の開催に協力
国際会議	FAST-zero'17(奈良/本会主催:2017年9月)を開催 SETC2017(ジャカルタ/本会主催:2017年11月)を開催 EVS 31 & EVTeC 2018(神戸/共催:2018年9月30日~10月3日)の開催準備を推進
アジアなど海外に係わる活動	
アジアでの講習会	第3回自動車工学基礎講座 in タイを在タイ日本大使館の後援を得、NSTDA(タイ国立科学技術開発庁)と共催(バンコク:2018年3月21日~23日)
英文電子ジャーナル	国内外からの英語投稿論文を J-Stage 上で公開する電子ジャーナル「International Journal of Automotive Engineering」を定期配信
TISI&TSAE-JSAE 標準化意見交換会	TISI(Thai Industrial Standards Institute, Ministry of Industry)と TSAE(Society of Automotive Engineers of Thailand)と国際標準化活動連携強化のための意見交換会(2017年9月)

ESV: International Technical Conference on the Enhanced Safety of Vehicles
 OS: Organized Session FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies
 SETC: Small Engine Technology Conference APAC: Asia Pacific Automotive Engineering Conference
 FAST-zero: International Symposium on Future Active Safety Technology - Toward zero traffic accidents
 EVTeC: International Electric Vehicle Technology Conference

10 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号、公益目的事業3）

自動車工学及び自動車技術の向上発展に多大な功績のあった技術者・研究者に対し、自動車技術会賞をはじめとして、以下の賞を授与した。また、2011年に策定した表彰会議ロードマップを「2050年チャレンジ」を基に改定した。

技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

第67回自動車技術会賞	技術貢献賞3件、浅原賞学術奨励賞4件、浅原賞技術功労賞2件、論文賞9件、技術開発賞8件を授与。(学術貢献賞は該当なし)
技術教育賞	1件に授与
技術部門貢献賞	47名に授与
自動車技術会フェロー	29名に称号を授与
学術講演会 優秀講演発表賞	春季大会講演から11件、秋季大会講演から8件に授与
標準化活動功労感謝状	標準化活動に顕著な貢献があった2名に感謝状を贈呈
出版・編集功績感謝状	本会の出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった方に感謝状を贈呈 編集功績感謝状12名、出版功績感謝状10名
学術講演会運営功績 感謝状	学術講演会の運営に顕著な貢献があった1名に感謝状を贈呈
学生対象の業績表彰	
大学院研究奨励賞	98名の大学院生に授与
学自研功労賞	13名の学生に授与

11 その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）

創立70周年記念事業の記念式典や記念出版等を本部及び支部において実施した。

公益社団法人対応業務

内閣府への事業報告 ・決算書の提出	定時総会終了後、事業報告・決算書の提出を内閣府に対して行った。 (電子申請)
寄附金	16名の方から総額313,000円の寄附金をいただいた。
代議員会・委員会・だいじん会	
代議員会	第2回代議員会(2018年1月26日)を開催し、2017年度事業報告・予想決算、及び2018年度事業計画・予算について報告を行った。
運営企画会議	・創立70周年記念事業実行委員会において、記念式典などを実施した。 ・将来ビジョン検討WGにおいて、長期的事業戦略および事業方針である「2050年チャレンジ」を策定した。
総務委員会	・2017年5月と10月に「女性技術者交流会」を開催した。 ・プレスリリースを14件配信
広報委員会	・ニュースレターJSAE Eyeを発行(4月、7月、10月、1月の年4回発行) ・東京モーターショー2017に出展 ・各種メディアへ積極的にアプローチするなどの広報活動を継続
研究倫理委員会	2016年秋季大会発表論文の倫理的検証結果のフォロー他を行った。
第54回だいじん会	2017年11月17日(金)にアルカディア市ヶ谷で開催し、名誉会員23名が参加

規則制定・改正

制定	なし
改正	なし

会員増強

関東支部	新入社員の入会促進活動を強力に推進。春季大会無料送迎シャトルバスの運行継続。魅力ある支部行事の企画実施。
中部支部	入会率の低い生産技術、女性技術者のための企画を進めるとともに、今後関連が深くなることが予想される他産業からも広く会員を募る。
関西支部	2017年度までの会員目標を設定し、3回の会員・魅力拡大委員会、担当理事を介して各団体へ協力を要請した。

ウェブサイトを活用した会員サービス

新規システム構築	本部ページ用会員ログインシステム、支部ページ用会員ログインシステム、支部ページ向け会員専用コンテンツサイト、本部ページのレスポンス対応
システム・データ更新	イベント参加受付システム、講演受付システム、抄録誌編集支援システム、JSAE 会員 MY 書籍、学生フォーミュラ集計・表彰システム、学生フォーミュラ支援システム、中部支部イベント受付システム、J-Tech Paper Entry System (国際会議論文受付システム)、アンケートシステム(クエスタント)、マイナンバー登録システム、本部ウェブサイト、支部ウェブサイト、書誌情報の電子化、オンデマンドライブラリー、会員情報システム、委員情報システム、事務局内部サーバの更新、ウェブサーバの更新、メールサーバの更新、クラウドストレージの導入、支部ネットワーク環境の整備

支部総会・役員会

北海道支部	支部総会1回、創立70周年記念式典1回、特別講演会1回、支部理事会2回開催
東北支部	支部総会1回、支部理事会3回、学自研参与会2回開催
関東支部	支部総会1回、理事会3回(内、顧問同席2回)、顧問会1回、事業担当理事会30回開催、ワーキンググループ5回開催
中部支部	支部総会1回、理事会2回、担当理事会2回、常任幹事会3回、担当幹事会6回、さんぼう会2回、各事業別企画委員会多数開催
関西支部	支部総会1回、理事会2回、各事業別企画委員会4回、編集委員会4回、合同会議1回
九州支部	支部総会1回、理事会2回、常任理事会4回

参考：事業区分の説明

公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・調査及び研究（定款 5-1）
- ・規格の作成及び普及（定款 5-5）

公益目的事業 2 研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl.等）
- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAЕ 誌、予稿集等）

公益目的事業 3 人材育成事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・人材の育成（定款 5-4）
- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）
- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業